

平成 24 年産 紀南の梅産地情報

12/07/20

「今年産の生育概況」

- 今年の梅の開花は、1～2月にかけて低温が続いたため、南高の開花始めは2月23～24日、満開は2月29日～3月2日となり、近年で最も遅いスタートになった。

開花期間中は早場では降雨、遅場では低温に見舞われ、南高・在来系共に着果数は前年・平年に比べ非常に少なくなった。

出荷は、小梅は5月15日から、古城は5月20日、南高は6月2日から始まったが、5月は降雨が少なかったため実肥りが悪く、日々の入荷量は少なくなった。

梅雨入り（6月8日）からは降雨もあり、南高の出荷ピークは6月10日、南高黄熟期の6月17日以降は実肥りも回復した。

今年は、かいよう病や黒星病の発生が見られたが、果実品質は良い年となった。

- 生産量は、各品種とも前年・平年に比べ非常に少なく、古城では過去最低となった。

7月20日時点生産見込量（単位：ト）

品種 \ 年	平 年	23 年産	24 年産	前年比	平年比
小 梅	1,006	1,054	658	62%	65%
古 城	1,073	777	438	56%	41%
南 高	22,660	24,583	15,144	62%	67%
在来系	745	606	485	80%	65%

- JA紀南の安全・安心対策は、10年目に入り全出荷者の生産履歴の回収と安全確認、生産者毎の出荷物サンプル保管、農薬残留分析自主検査、適正農業規範(GAP)の点検を実施した。

「産地の課題と方向」

近年の予想を上回る気象変動が頻発する中、梅生産・農業経営面においては作柄を安定させることが最重点課題となる。授粉対策や山畑等不安定園地での品種の見直し、老木園の改植を積極的に進めることが重要である。

また、小梅－古城－南高のリレー販売を確立させるため、引き続き古城の生産安定について組織を上げて産地強化に取り組む。